

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川陽平殿

報告日付:2013年4月30日
事業ID:2011966139
事業名:「津波防災学習」海岸清掃と海の工作編
団体名:冒険あそび倉庫
代表者名:金川佳史
TEL:050-5534-5522
FAX:073-451-0426
事業完了日:2013年3月31日

事業費総額	1,248,061円	(事業の実施にあたり生じた費用の総額(支払台帳の合計金額))
自己負担額	158,061円	
助成金額	1,090,000円	(事業実施のために使った助成金の総額)

事業内容:

1. 津波防災学習と海岸清掃

- (1)時 期:2012年7月14日/2012年7月21日/2013年3月9日/2013年3月16日/
(2)場 所:稲むらの火の館・広村堤防・煙樹ヶ浜の海岸
(3)参加者:大人5名・子ども10名(2012年7月14日)/大人6名・子ども9名(2012年7月21日)
大人5名・子ども10名(2013年3月9日)/大人4名・子ども11名(2013年3月16日)
(4)内 容:稲むらの火の館と広村堤防を訪問して津波と防災について学んだ。
煙樹ヶ浜の海岸の状況を観察しゴミが海の環境に与える影響や被害について考察した。
海岸のゴミの清掃をしながらゴミである「小さな流木やガラス片」、持ち帰っても海の環境や
生物に与える影響が少ない「貝殻や小石」などを工作の材料として集めた。
(5)スケジュール:
08:45 集合場所で受付開始
09:00 安全確認・グループ分け・自己紹介・稲むらの火の館へワゴン車で移動
10:00 稲むらの火の館着・活動説明・講話(建物の耐震や免震について模型で学習)
10:30 映像による学習(「津波防災編」とドラマ「稲むらの火」を鑑賞)
11:00 津波シミュレーターとゲームによる学習・広村堤防へ徒歩で移動
11:30 広村堤防着・講話(語り部による「稲むらの火」「広村堤防築堤」の解説を聞く)
12:00 昼食・休憩・煙樹ヶ浜の海岸へワゴン車で移動
13:30 煙樹ヶ浜の海岸着・海岸の状況観察・ゴミの環境影響と被害について考察
14:00 海岸の清掃活動
15:00 工作材料集め
15:30 集めたゴミの運搬
16:00 活動の振り返り・津波からの避難と海の環境保護について考察
16:30 集合場所へワゴン車で移動
18:00 集合場所着・解散

2. 津波防災学習と海の工作

(1)時 期:2012年8月18日／2013年3月24日

(2)場 所:和歌山市北コミュニティーセンター

(3)参加者:大人11名・子ども19名(2012年8月18日)／大人9名・子ども21名(2013年3月24日)

(4)内 容:津波防災伝承「津波てんでんこ」を学んで地域社会の現状に合う避難方法を考察した。
「稲むらの火」以降の「濱口梧陵」の業績を学んで、津波被害からの復旧復興と防災について考察した。
集めた海の材料を使ったクラフト工作(キースタンドや写真立てなど)を行った。

(5)スケジュール:

09:45 受付開始

10:00 活動説明・「津波防災学習と海岸清掃」活動の振り返り

10:30 津波防災学習

12:00 昼食

13:00 海の工作・工作に必要な材料の選定・工作の安全と技術指導

14:00 工作開始

16:00 作成した作品の発表

16:30 活動の振り返り・今後の活動について考察

17:00 解散

事業目標の達成状況:

大手化学会社の研究員や県職員が講師として、青少年団体から大人がスタッフとして参加した。
地元の小学校と青少年団体の協力のもと、地域の子どもや保護者に津波防災学習と海岸に漂着したゴミを清掃して持ち帰り工作を行う活動を体験してもらえたと思われる。
参加者に対して津波防災と環境保護について初歩的な学習をしてもらえたと思われる。

中学生と高校生の2名がスタッフとして活動に参加し、「津波防災学習と海の工作」では講師と共に津波防災についての発表を行った。
複数の参加者から「地震発生時の早急な避難や生き残る行動の大切さが分かった」「紀南の海岸への津波の到達予想時間の短さにたいへん驚かされた」という声が寄せられたことから、「稲むらの火」と「津波てんでんこ」を地域社会の現状に合わせて啓発し、紀南の海岸状況、防災と復旧について一定の関心を持ってもらえたと思われる。

活動終了後に家族で「津波からの避難や海岸のゴミ」について話合う参加者がいた。
学習だけで終わるのではなく「実践につながる」活動が行えたと思われる。

活動終了後に自宅で「流木やガラス片、貝殻、小石」を使った工作を行う参加者がいた。
単なるゴミ拾いではなく「リサイクル工作の一環として楽しみながら」行えたと思われる。

プログラムは簡単に行えるようにパッケージ(材料一式をセットしたもの)を準備して行えた。

十分な広報(チラシ配布)が行えたので、募集人数に近い参加があった。

事業成果：

多くの参加者と保護者から

「想定される津波の到達時間の早さに驚いた」

「想定される津波の高さや規模の大きさに驚いた」

「災害に対する備えの重要性を知った」

「災害時に生き残る行動の大切さを知った」

「ゴミの量や種類の多さに驚いた」

「海にゴミを捨てることはよくない」

「これからは海岸の清掃を自主的に行いたい」

「今後も同様の活動に参加したい」

「今回の内容に継続発展した活動に参加したい」

という意見が寄せられた。

チラシを配布した小学校では活動内容に対しての評価が高く、広報に積極的な協力があった。

チラシを配布した小学校から学校行事でも行いたいという相談が数件あった。

チラシを見た青少年団体から「同様の活動を行いたい」と問合せが数件あった。

参加者募集チラシ20,000部を作成した。